

キャラクター名  
松風 剣人

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン オルクス		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	感染	衝動	解放	初期侵食率	36 %	
出自	安定した家庭	経験	小さな名誉	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	1	0			2	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	3	0	0			3	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	12		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
鬼切	白兵	3r+12	3	10		
100以下白兵コンボ	白兵	3r+22	3	10		C値8 侵7
100以上白兵コンボ	白兵	8r+24	3	22		C値7 侵12

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
遺産継承者(鬼切の古太刀)	P	N		
ライバル	P 信頼	N 劣等感		
師匠	P 尊敬	N 恐怖		
名須川色葉	P 好意	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-lv 下限7								
ディストーション	1	2	メジャー	武器	-	白兵	-	
効果: 社会置換								
完全なる世界	3	5	メジャー	-	-	シンドローム	100	
効果: ダイス+lv+1 攻+lv×3								
居合い	5	3	メジャー/リアクション	-	-	白兵	-	
効果: 達成値+lv×2 1回/ラウンド								
領域の声	1	1	メジャー	-	-	情報	-	
効果: ダイス+lv+1								
スタートダッシュ	3	3	セット	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動 離脱可能 lv回/シーン								
一声散開	1	3	セット	至近	自身	自動	リミット	
効果: 至近距離のlv体も戦闘移動(離脱可能)								
リミットリリース	1	6					100	
効果:								
激情の早鐘	1	4					100	
効果:								
成長促進	★							
効果:								
猫の道	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

ごく普通な家庭に生まれ、親の趣味であった剣道を嗜む高校生。

父親の趣味で幼い頃から剣道をやっており、本人も剣の道にのめり込んでいる。才能があったのか着実に力をつけ、同年代と比べ一歩頭の抜けた実力を持つ。だが、本人は決して驕らず、母親譲りの柔和な性格も相まって、周囲からは好意的に接されている。

中学に上がった頃には全国大会で優秀な成績を取った経験もある。しかし、中学2年になった年、アトアと共にオーヴァードの存在が公表され、周囲にプライマリとなった人々が増え始める。それに伴い、剣道に限らず、スポーツ界隈ではプライマリによる超人的な試合が繰り返されるようになり、段々と周囲の成果に埋もれていくようになった。

そんな中で、プライマリになれずとも修行に精を出していた彼は、中学3年の終盤に現在の剣術の師匠と出会いその下で超人的な速度で実力を伸ばしていった。彼の師匠が扱う剣術は殺人剣に重きを置いており、門下生は殆どいない。必然的に師匠とのマンツーマンの指導が続き、彼自身に殺人剣を扱う才能が備わっていることが判明する。彼はスポンジのようにその技術を会得していったが、「剣道の試合の為に剣技を磨く」という矜持から人を傷つけるために剣を取ったことは一度もない。その為、その気になればプライマリといえど無事では済まない程の剣技を披露できる。何はともあれ、師匠の下で血の滲むような努力の末、高校生になった年の大会では3位という、ピハインドにしては破格の成績を叩き出した。

ピハインドはプライマリになれなかった哀れな奴等、という風潮が少なからずある世の中でも、彼はいじめられる事もなく、周囲と良好な関係を築き上げている。それは彼自身の性格と実力、そして幼馴染である色葉の存在が関わってくる。彼女は明るく誰とでも仲のいいクラスの人気者で、幼い頃からずっと側にいた。彼女の明るさで彼自身救われたことは何度もあるし、周囲との繋がりも彼女が契機になることが多かった。

色葉に感謝しているし、長年続いている初恋の相手でもある。口にする勇気が持たず、自分のような剣道一筋の面白味も無い男では釣り合わないと思っているため、仲のいい異性の幼馴染止まり。周囲は面白がって2人をくっ付けようと(主に剣人で)遊んでいるが、特に進展もなく高校2年になっている。

基本的に、ピハインドであることがコンプレックスになっており、表に出さないが色葉を含む周囲の人には劣等感がある。